

## 2020 年度 第 4 回理事会議事録

I. 会議名 : 2020 年度 (公社) 日本地すべり学会 第 4 回理事会

II. 開催日時 : 2020 年 11 月 26 日 (木) 14 時 30 分~17 時 10 分

III. 開催場所 : WEB会議

IV. 出席者 : 理事出席 18 名, 監事出席 1 名, その他 3 名

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
理事	浅野 志穂	○	理事	太田 英将	○	理事	富田 陽子	○
理事	石丸 聡	○	理事	加藤 猛士	○	理事	中里 裕臣	○
理事	岩橋 純子	○	理事	笹原 克夫	○	理事	中村 真也	○
理事	宇次原 雅之	○	理事	佐藤 剛	○	理事	平松 晋也	○
理事	榎田 充哉	○	理事	佐藤 浩	×	理事	藤井 俊逸	○
理事	大河原 正文	○	理事	柴崎 宣之	○	理事	渡部 直喜	○
理事	小山内 信智	×	理事	高山 陶子	○	(理事 18 名, 定足数 11 名)		

監事	今泉 文寿	○	監事	相楽 渉	×	(監事 1 名)		
----	-------	---	----	------	---	----------	--	--

事務局	鈴木 英則	山梨大会 実行委員長	後藤 聡	(その他 3 名)				
ICL 委員長	檜垣 大助	—	—	—				

○理事会開始時における理事の出席数は 15 名。定足数 11 名 (理事の過半数) を満たし理事会は成立。

○加藤理事, 高山理事, 中村理事は, 審議事項-1 途中から出席 (出席理事 18 名)。

○大河原理事は, 審議事項-1 から審議事項-2, および, 報告事項-4 以降に出席。

○佐藤 (剛) 理事は, 報告事項-5 以降は退席。

○議事録署名人は, 平松会長、今泉監事。

### <議長あいさつ>

平松会長が開会のあいさつを行った。

### 議題 I. 審議事項

#### ・2020 年度 (公社) 日本地すべり学会 第 3 回理事会議事録の確認

浅野専務理事が、2020 年度 (公社) 日本地すべり学会第 3 回理事会議事録について、確認を求めた。

賛成 18 票, 反対 0 票で承認された。

加藤理事、高山理事、中村理事が審議途中から参加。

## 1. 2021・2022 年度支部別代議員数と選挙管理委員の選任

柴崎理事より、資料に基づき、代議員数、選挙管理委員数およびその候補者について説明が行われた。

- ・理事からの意見、質問は特になく、審議の結果、賛成 18 票、反対 0 票で承認された。

## 2. 学会強靱化プロジェクト

宇次原理事より、資料に基づき、学会強靱化プロジェクトのアンケート結果について説明が行われた。

理事からの意見とその後の議論は以下の通りである。

### (1) 学会強靱化プロジェクトの方向性

・若手対策、人財育成というキーワードが重要であるという点については賛成である。ただし、今の学会の活動と重複している部分の仕分けをどのように行うのかが課題であるとする。重複部分は、既存の組織の活動に行っているところに載せていくような仕分けが必要で、新しい組織をつくると、責任の所在が分からなくなる。

・研究委員会は若手が中心となった委員会も立ち上がっている。新しい組織をつくるとすると研究調査部が担当になるのかも知れないが、リソースを考えると、実質的に厳しい。支部・本部の横串を指すような試みが重要である。

・特に、支部の動きが活発になることが重要である。

・毎年、若手対策予算として各支部に 17 万円計上している。この施策が続いている間は、支部の若手対策助成金として使用することは見合わせてもよいと考える。

・目標を定めて、そこに向かって施策を決める必要がある。学会の将来を考えると若手を育てることが重要である。また、若手対策と類似しているが技術伝承も重要である。

・若手育成を柱として、ストーリーを作っていくことが必要で、その一環で学会アウトリーチ活動を行うことが良いと考える。

### (2) 具体的な施策

・若手の活動を支援する施策として、研究発表会、シンポジウムなどが考えられる。即座に若手対策で動き出せるものを整理する。

・例えば、学会誌をみると、地すべり学会は、高齢化しているように感じている。地すべり学会誌に若手の交換会の紙面を設ける案はどうか？

・学会費を値下げするとか、研究発表会を破格の値段にするとかの対応も検討する案はないか？

### (3) 活動の方向性の審議

・若手人財育成として、アウトリーチ活動を行っていく方針とする。

・具体的な施策については、アンケート結果も踏まえて、検討を続ける。

⇒活動の方向性について審議の結果、賛成 18、反対 0 で承認された。

○大河原理事が退席。

## 3. WLF5 おける“1 頁要旨発表”での「日本の地すべり防災行政」セッションの企画

檜垣 ICL 委員長より、来年に延期された WLF5 において、英語による 1 頁のプロシーディング、10 分の発表を新規に地すべり学会で企画したいとの提案がなされた。

理事からの意見とその後の議論は以下の通りである。

- ・タイトルが、「日本の地すべり防災行政」となっているが、防災行政というタイトルにした理由は何か？。

⇒英語では、「Landslide disaster mitigation by the Japanese government」で、防災行政というキーワードはでてこない。英語では、官公庁による地すべり対策の意味となっている。三省庁にお願いする上で、説明しやすいことからこの呼び名を使ってきた。

審議の結果、賛成 17, 反対 0 で承認された。

#### 4. 入退会者状況と会員の現状

鈴木事務局長より地すべり学会の入退会者状況と会員数の現状について説明がなされた。

- ・審議の結果、入会者については賛成 17 反対 0 で承認された。

- ・昨年同時期と比べると約 30 名会員数が減っている。30 名というのは、研究発表会の際の入会者数とほぼ同じである。今年にはコロナのせいで山梨大会の現地開催が中止となったため、その影響が出た。改めて会員数対策での研究発表会の重要性が分かる。

#### 5. その他

特になし。

### 議題Ⅱ. 報告事項

#### 1. 山梨大会完了報告

佐藤（剛）事業計画部長より山梨大会の懸案事項であった、支払い済みの会場費が全額返却になったとの報告がなされた。詳細として後藤山梨大会実行委員長より、以下の説明が行われた。

- ・支払った会場費が返還された結果、山梨大会の収支決算は、差し引き残高マイナス 7 万 7 千円であった。

- ・山梨大会報告書については、コロナウイルス感染症拡大防止による対応で中止になった理由やその当時の状況、対応、今後の提言について、できる限り記録に残した。

質疑応答は以下の通りであった。

- ・現地開催は無かったが CD を出版して、何部程度売れているか？

⇒講演集は発表者等への配付分を除いて 5 6 部が販売された。

(後藤委員長退席)

#### 2. 若手会員向け Web セミナーの開催結果と今後の計画

富田理事より、若手会員向け Web セミナーの開催状況について以下の説明が行われた。

- ・当初開催を 1 回とし 1 回当たりの人数を 30 名としていたが、想定以上に参加希望者が多かったため 3 回開催することになった。それでも参加から漏れた希望者があった。

- ・民間企業からの参加が多く、参加者の年齢は、40代までが7割で、参加者の所在は、北海道から九州までの方がおられた。
- ・セミナー後のアンケートでは、Webなので勤務地にこだわらない、移動中でも参加できる、実務に役に立つとの評価が得られた。
- ・定期的に行ってほしい。活用事例が知りたい。継続的な情報発信が欲しい、シニアの現地視察で聞きたい、海外の地すべりが知りたい。等の意見があった。

富田理事から、セミナーでの課題と今後の方針の提案があった。

- ・課題：1回当たりの人数を30人に絞ったこともあって、86名が受講できなかった。
- ・提案：入退会自由とする地すべり CIM クラブの様なゆるい組織を立ち上げて、若手が気軽に議論や相談等が出来る場にしたい。

#### 【受講できなかった86名に対する意見】

- ・一回の受講者30名にしたのは、質疑応答にこだわったのか？  
⇒その通りである。
- ⇒再度、セミナーを開催するのではなく、視聴者にパスワードを付与することにより、ホームページにビデオを公開する形式はどうか？講演者に負担をかけずに行う方法が望ましいと思う。
- ⇒参加者が多かった理由は、今回のテーマがニーズにマッチしたということもあると思う。しかし、参加者のアンケートによれば、8割の方が建コンサルタンツ協会のCPDが欲しいと回答している。このため、建設コンサルタンツ協会のCPDが得られるという影響が大きいと考えている。ただし、建コンサルタンツ協会によれば、ビデオ視聴ではCPDは付与しないとのことである。
- ⇒CPDは付与されないことを条件にビデオ視聴を行う方針も検討して欲しい。
- ・CIMは技術革新が速いので、ビデオを流す場合にも期間限定が良いと考えている。

#### 【地すべり CIM クラブの立ち上げについて】

- ・CIMに関して情報交換に場を設けることは良い取組みだと思う。
- ⇒どのように活動するか案を作って提案して欲しい。

### 3. 会長、副会長及び専務理事の職務執行状況

- ・平松会長より、資料に基づいて職務執行状況の報告がなされた。
- ・榎田副会長より、資料に基づいて職務執行状況の報告がなされた。
- ・中里副会長より、資料に基づいて職務執行状況の報告がなされた。
- ・浅野専務理事より、資料に基づいて職務執行状況の報告がなされた。

○大河原理事が出席

### 4. オンライン ICL-IPL 会議 2020.11.2-6 報告

資料に基づいて、檜垣 ICL 委員長より報告が行われた。

- ・質疑応答は、特になかった

○佐藤（剛）理事退席

## 5. 働き方改革推進支援助成金支給決定

資料に基づいて、鈴木事務局長より報告が行われた。

厚生労働省のテレワーク助成金である。申請額の約半分が支給される。

- ・質疑応答は、特になかった

## 6. その他

### (1) 北海道大会の準備状況

北海道支部石丸理事より、北海道大会の検討状況について、以下の報告が行われた。

- ・第1回実行委員会の日程調整を行っているところで、参加人数は、通常の人数を想定して予算書を作成している。
- ・コロナウイルス感染防止対策を最低限行った場合について参加費等を試算した。事前登録費用は通常より当然、割高になる見込みである。意見交換会、現地交換会の参加費も通常より割高になりそうである。
- ・会場での対面とオンラインのハイブリット開催方式にすると高価になり、ハイブリットでの開催は難しそうである。3月の理事会で方向を定め、6月までに最終判断をする必要がある。
- ・2月の事業計画部会で、大会の開催方針について決めて、3月の理事会に附議したいと考えている。
- ・開催時期は、9月を予定している。大会メイン会場は3か月前の6月以降のキャンセルになると全額払いで、3か月前までにキャンセルした場合でも、支払った分の会場費は半額しか返還されないことになっている。意見交換会、現地見学会については、6月時点であればキャンセル料は発生しない。

### (2) シンポジウムの検討状況

事業計画部宇次原理事より、来年度の学会シンポジウムについての検討状況について報告がなされた。

- ・12月の事業計画部会で方針を決定する予定である。開催時期は6月でオンライン開催を予定している。

以上

議 長 平松 晋也 ㊟

議事録署名人 今泉 文寿 ㊟